刊行辞

ここに、「ディベート教育国際研究会」から『ディベートと議論教育』を刊行する運びとなったのは、日本および近隣国におけるディベート教育・議論教育の発展や普及において、大変喜ばしい事である。翻ってみれば、戦後日本に、大学英語サークル ESS を中心にディベートが普及したことを発端に、1980 年代に NAFA や JDA が生まれ、その後にディベート甲子園や CoDA が生まれ、ディベートの大会や普及活動は日本全国に広まっている。しかし、そうした動きとは対照的に、ディベートについての理論的・実践的な教育研究については、私も学生時代に読んでいた『Debate Forum』が Volume XV No.2（通巻 48 号）をもって廃刊され、それを継承したオンラインフォーラムである Debate Forum も、2002 年あたりの記事を最後にアップデートが止まっているように、停滞感を免れることはできないのが現状である。

この『ディベートと議論教育』は、九州大学言語文化研究院を中心とした「ディベート教育国際研究会」を母体としている点からも明らかなように、従来のディベート団体での活動に加え、大学(間)組織を中核とした恒常的な発展が見込めることが、大きな強みの 1 つである。また、この創刊号に掲載された論文のラインナップでも、台湾の大学での実践報告が目立っているように、国を超えた大学間での普及活動という先見性も大きなアドバンテージである。さらに近年では、大学初年次教育の重要性から、批判的思考力という観点から、ディベート教育への言及も増えてきている。

こうして、ディベート教育についての理論的・実践的研究については、伸びしろは大変大きいと言える。そうした中、本誌が日本および近隣国におけるディベート・議論教育の向上に果たす役割は、重要になっていくだろう。編者として、良質の論文の確保に努めていきながら、今後のディベート教育を長く見守っていきたい。

平成 29 年 8 月

論集編集委員長　青木滋之・蓮見二郎